

2. 重要度、満足度について

(1) 重要度、満足度のプロット図について

重要度を縦軸に、満足度を横軸にとって44項目の回答結果をプロットした。

44項目の重要度と満足度のそれぞれの平均値(重要度県平均値1.36、満足度県平均値-0.17)によって分けられた4つのグループについて以下のように分類している。

重要度	Bゾーン	Aゾーン
	<p>重要度：平均値より高い 満足度：平均値より高い</p> <p>今後も現在の水準を維持するため、着実に取組を推進する必要がある。</p>	<p>重要度：平均値より高い 満足度：平均値より低い</p> <p>特に取組の推進や改善に対する県民のニーズ(必要性)が高い項目と考えられ、従来の施策の取組方向について、さらに改善を検討する必要がある。</p>
	Dゾーン	Cゾーン
	<p>重要度：平均値より低い 満足度：平均値より高い</p> <p>現状どおりの着実な取組の推進とともに、施策の重要性についてさらに認知してもらえる取組を進める必要があると考えられる。</p>	<p>重要度：平均値より低い 満足度：平均値より低い</p> <p>施策の重要性をさらに認知してもらえるような取組とともに、従来の施策の取組方向の改善を検討する必要があると考えられる。</p>
		満足度

(2) 重要度と満足度の算出方法について

各分野の取組の重要意識及び満足意識の各選択肢に得点をつけ、平均得点を算出している。
 選択肢に重みをつけることにより、回答者の重要意識・満足意識を総合的に反映した、より深い分析が可能となる。

この結果を基に44項目の重要度・満足度の現状や、重要度と満足度の関係等を分析する。

なお、地域別による違い等を分析する際、県全体や他地域との比較を分かりやすくするため、ゾーン分けは県全体の平均ラインを用い、参考として図中に地域の重要度、満足度の平均ラインを一点鎖線で示している。

$$\frac{\begin{matrix} ※ \\ \text{「重要（満足）」} \times 2 + \text{「どちらかといえば重要（満足）」} + \text{「どちらかといえば重要ではない（不満）」} \times (-1) + \text{「重要ではない（不満）」} \times (-2) \\ ※ \end{matrix}}{\begin{matrix} ※ \\ \text{「わからない」、「無回答」を除く有効回答者数} \\ ※ \end{matrix}}$$

重要度 = $\frac{\text{重要（満足）} \times 2 + \text{「どちらかといえば重要（満足）」} + \text{「どちらかといえば重要ではない（不満）」} \times (-1) + \text{「重要ではない（不満）」} \times (-2)}{\text{「わからない」、「無回答」を除く有効回答者数}}$

※得点配分

重要度	満足度	ポイント
重 要	満 足	+ 2
どちらかといえば重要	どちらかといえば満足	+ 1
どちらともいえない	どちらともいえない	± 0
どちらかといえば重要でない	どちらかといえば不満	- 1
重要でない	不 満	- 2